

広報

心し

NO.203

発行・富士市役所
富士市永田61-1

編集・

企画調整部広報広聴課
【毎月5日と25日発行】

51.5.5 発行



連合婦人会が創立十周年を記念して吉原小で体育祭

ぜんそく児童は5年前の1.5~4倍

富士市の気管支ぜんそくの実態を調べるため、千葉大学医学部に調査を依頼してありましたが、このほど調査結果がまとまりました。調査は①学童の中にぜんそく患者がどれくらいいるか。②5年前にぜんそくだった学童がその後どうなってい

るかを調べたものです。

この結果、5年前より発病率は約1.5~4倍、また当時のぜんそく児童の64%近くが快方に向っていることが明らかにされました。それでは、調査結果のあらましをお知らせいたします。

今泉小の有症率は

4.80^{パーセント}

富士市における気管支ぜんそくの実態調査は、昭和42年から45年にかけて、千葉大医学部公衆衛生学教室、小児科学教室が、吉田亮同学部教授の指導で行いました。その後どのような変化が現われているか、また、当時ぜんそくと診断された児童の経過を知るため、昨年11月から12月にかけて、保護者に質問記入と面接する方法で、有症率調査と予後調査を行いました。

気管支ぜんそく有症率調査は、昨年11月1日現在、今泉小、元吉原小、鷹岡小大淵第1小学校に在籍した児童5685人を対象に行いました。

その結果、5591人から回答があり、この中からぜんそく又はその疑いのある児童510人が第2次調査を受けました。このうち218人が気管支ぜんそくとわかり、有症率は3.90%にも及んでいます。

学校別では、今泉小の有症率が最も高く、1688人中81人で4.80%と4



【調査結果を発表する千葉大吉田教授】

鷹岡小が2015人中70人で、3.47%、大淵第1小が911人中28人で3.07%となっています。

校の平均を大幅に上回っています。次いで元吉原小が977人中39人で、3.99%

なお、5年前の調査では、今泉小1.67%、元吉原小2.54%、鷹岡小0.72%、大淵第1小0.78%でしたから、ほぼ1.5~4倍に増加したことになります。

学校別調査対象数

小学校	性別	在籍数	第1次調査		第2次調査	
			回収数	回収率	該当数	該当率
元吉原	男	509人	500人	98.2%	48人	9.6%
	女	481	477	99.2	37	7.8
	計	990	977	98.7	85	8.7
今泉	男	857	849	99.1	106	12.5
	女	849	839	98.8	86	10.3
	計	1,706	1,688	98.9	192	11.4
鷹岡	男	1,069	1,062	99.3	90	8.5
	女	955	953	99.8	74	7.8
	計	2,024	2,015	99.6	164	8.1
大淵第一	男	504	471	93.5	44	9.3
	女	461	440	95.4	25	5.7
	計	965	911	94.4	69	7.6
計	男	2,939	2,882	98.1	288	10.0
	女	2,746	2,709	98.7	222	8.2
	計	5,685	5,591	98.3	510	9.1

ぜんそく児の居住歴と発症地

218人のぜんそく児のうち、同じ場所に5年以上住んでいる人が177で81.2%です。

学校別では、今泉小86.4%、元吉原小94.9%、鷹岡小87.1%ですが、大淵第1小は32.1%と低

くなっています。また、居住歴3年以上の人についても、今泉小91.4%、元吉原小97.5%、鷹岡小92.8%であったのに比べ、大淵第1小は39.2%と低率です。言い換えれば、大淵地区に公害をのがれ、ぜんそく児のいる家族が転地したものとされます。

発症地についてみると、市内での発症者は、今泉小90.1%、元吉原小94.9%、鷹岡小90%、大淵第1小82.1%、合計89.9%を占め、大部分の児

童が市内でぜんそくになっています
 なお、居住歴5年未満のぜんそく
 児は、今泉小10人、元吉原小2人、鷹
 岡小9人、大淵第1小17人です。以上
 の児童の前住地、発症地をみると、
 今泉小の場合10人のうち県外から6
 人、県内から4人転入し、県外から
 の3人は富士市に転入後ぜんそくに
 なりました。元吉原小の場合は、転
 地療養後再び戻ってきたもので、発
 症地は富士市です。鷹岡小の場合は

県外から2人、県内から3人
 転入し、市内の移転が3人、
 不明1人で、いずれも前住
 地でぜんそくになっています。
 大淵第1小の場合は、
 市内の移転が13人、県外か
 ら1人、県内から3人転入し
 県内の1人をのぞいていて
 いずれも前住地でぜんそく
 になっています。

気管支ぜんそく児の予後

(単位人、カッコ内%)

区分		性別		計
回	答 数	男	女	
緩解 した もの	1～2年	3 (4.0)	5 (10.4)	8 (6.5)
	2年～	24 (32.0)	16 (33.3)	40 (32.5)
	不 明	2 (2.7)	0	2 (1.6)
	計	29 (38.7)	21 (43.8)	50 (40.7)
ぜんめいのみあ るもの		15 (20.0)	13 (27.1)	28 (22.8)
呼吸困難 発作 があるもの		31 (41.3)	14 (29.2)	45 (36.6)
回 数	減 っ た	17 (54.8)	7 (50.0)	24 (53.3)
	増 え た	4 (12.9)	2 (14.3)	6 (13.3)
	変 ら ない	10 (32.3)	5 (35.7)	15 (33.3)
強 さ	軽 くな った	14 (45.2)	8 (57.1)	22 (48.9)
	重 くな った	4 (12.9)	1 (7.1)	5 (11.1)
	変 ら ない	13 (41.9)	5 (35.7)	18 (40.0)

追跡調査で63.5^{パーセント}がほぼ快方に

5年前気管支ぜんそくと診断され
 た児童が、その後どのような状態に
 あるかの追跡調査は161人を対象に
 行ったところ、123人から回答があり
 ました。

このうち、50人、63.5%が最近発
 作がなく、快方に向っています。ま
 た、28人、22.8%がゼーゼーする程
 度に治っています。残りの45人、36.6
 %は現在でも呼吸困難あるいは発作
 を起こしています。

なお、呼吸困難・発作の回数、強
 さを45人について聞いたところ、回
 数では減ったのが24人、増えたのが
 6人、変わらないのが15人です。強さ

では、軽くなったのが22人
 重くなったのが5人、変ら
 ないのが18人です。

また、公害病認定の有無
 については、富士市から転
 出した6人を除外し、117人

についてまとめました。このうち快
 方に向っている人で認定を受けてい
 るのが50人中3人です。しかし、症
 状が依然として続いているのに認定
 を受けていない人が67人中38人も
 あります。特に、呼吸困難発作がある
 人の中でも認定を受けていない人が
 15人もいます。

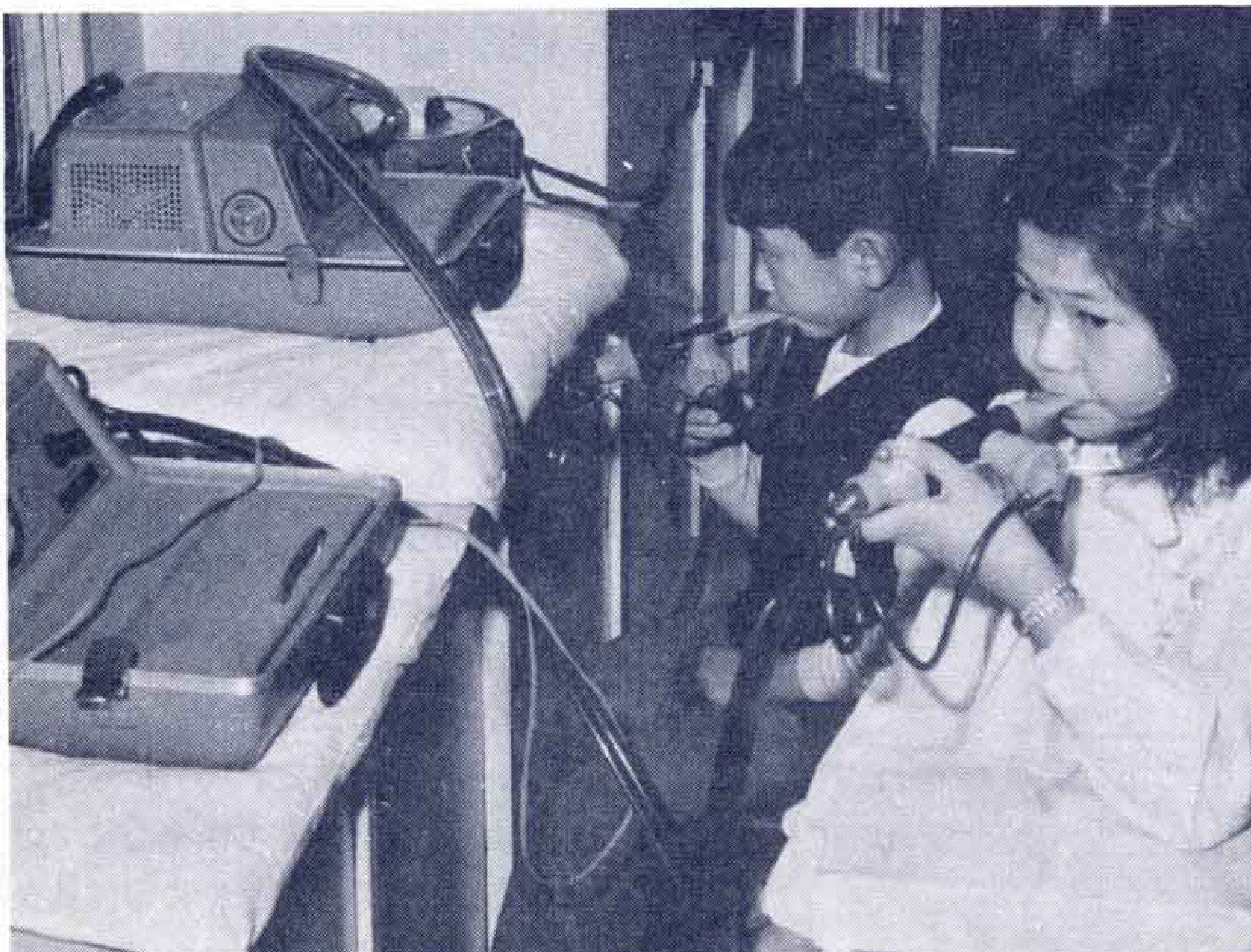
ぜんそくは治りにくいものですが

小児ぜんそくの患者の3分の1が治る
 見込み、3分の1が大人のぜんそくに
 移行していく、残りの3分の1が治療
 によっては治るが、どちらともいえ
 ないとされています。富士市の場合
 も追跡調査から見てこのデータに
 あてはまっています。



予想以上に増加

今回調査を指導した吉田亮教授は
 ある程度ぜんそく患者が増えること
 は予測できたが、思ったより増えて
 いた。全国的(非汚染地域も含め)
 に増加しているが、赤ちゃんの時人
 工栄養で育てたり、タンパク質性食
 事が多くなったなど生活様式の変化
 も見のがせない。富士市の場合、中
 小企業が多いせいか、硫黄酸化物濃
 度の減り方がおそすぎる。チッ
 素酸化物の対策が遅れていることな
 どを取り上げ、両方の環境基準を達
 成しなければ、ぜんそく患者は減ら
 ない—と指摘しています。



【中央病院で治療を受けるぜんそく児】

井出さんと深沢さんが春の叙勲を受彰

- …政府は、天皇誕生日の4月29日、春の叙勲を発表しましたが、富士市では次の2名…●
- …の方が受彰されました。受彰されたのは、自治功労の井出徳太郎さんと消防・自治…●
- …功労の深沢茂一さんの両名で、お二人とも勲五等瑞宝章の榮譽に輝きました。……●



勲五等瑞宝章

元富士市市議会議員

井出徳太郎さん(75才)

＝蓼原43＝



勲五等瑞宝章

富士市消防団長

深沢茂一さん(69才)

＝吉原3丁目3の7＝

自然環境保全会議が発足

○…昭和51年1月15日発行の暮らしのたよりでお知らせいたしました「富士市の自然環境の保全と緑の育成に関する条例」が本年3月1日より施行され、この条例により市長の付属機関として「富士市自然環境保全会議」が、3月22日発足いたしました。保全会議の委員は30人で、市議会議員、公共的団体の役員、行政機関の職員、知識経験者、市の職員で構成されております。議長には、加藤源治さん（富士市町内会連合会長）副会長には、後藤篤美さん（富士市農業委員会振興部会長）に決まりました。

保全会議は、自然環境の保全と緑の育成に関する基本的事項や、重要

な土地利用事業に関する事項等、市長から諮問のあった事項を調査審議して意見を出す機関です。

諮問第1号は 太陽グリーンランド のゴルフ場造成

○…この保全会議への諮問第1号として「太陽グリーンランド(株)のゴルフ場造成に係る土地利用事業と自然環境の保全について」の諮問書が4月23日保全会議加藤源治議長に手渡されました。

諮問事項

自然環境は、住民の健康で文化的

な生活に欠くことのできないものにして限りない恩恵を賦与するところであり、経済活動のための資源としての役割を果たすと同時に、自然環境自体が豊かな人間生活に不可欠の構成要素となっている。

このため自然を構成する諸要素間のバランスに注目する生態学的思考のもとに、次代に継承すべき自然環境を適正に保全する観点から、広範囲の土地にわたるゴルフ場造成行為が及ぼす地域の自然環境に与える影響と、その適応性を考究することが必要である。

したがって、植生の保全、治山治水機能の保全、流域河川機能の保全、自然景観の保全、周辺農林地への影響及び地域住民の生活環境への影響等々、重大な係わり有する本件ゴルフ場造成事業計画については、かかる要因のもとに、自然環境の保全の主旨にかんがみ、如何に対応し措置することが至当であるとする事について貴保全会議の意見を得て、これを行政事務に資すべく、ここに諮問いたすものである。

○…この諮問を受けて保全会議では今後調査審議を行い、その審議結果を市長に答申することになります。





ヒノキ五〇〇本を植樹

市植樹祭も今年で十四回目。四月二十四日、桑崎字笹塚の市有林で、関係者二百五十人が出席して盛大に行いました。会場は、先ごろ四十年生のヒノキを伐採した跡地で、〇・一五ヘクタールにヒノキの苗木五〇〇本を植えました。

工芸のすばらしさを… 手づくり作品を展示

富士市工芸協会展を4月23日から25日までの3日間、吉原市民会館で行いました。

会場には、陶芸や染色を趣味でやっている方の手づくり作品が展示され、見学者に工芸のすばらしさを見ていただきました。展示作品は、陶芸で茶わん、大皿、壺、仏像、花びんなど、染色では帯や着物、羽織、テーブルクロスなど108点にのぼりました。



親子レクリエーション大会 ＝富士南地区子供会＝

5月5日の子供の日を中心に、各地区ごとに趣向をこらした行事が行われています。4月29日には、富士南地区の子供会が富士川河原で親子レクリエーション大会を開きました。午前中はあいにくの雨で、カッパを着てゲームをしたり富士川橋の下で飯ごうすいさんをしましたが、親子そろって楽しいひと時をすごしました。



ふるさと の歴史



これは、江戸時代の始めころのお話です。

徳川家康には多ぜいのお姫様がいましたが、なかでも美しい一人のお姫様が三河国におこし入れすることになりました。江戸を出てから7日目、お姫様の美しい行列は富士川にさしかかりました。わたし船にのって水神の岩あたりまできた時です。今まで進んでいた船が急に止まってちっとも動かなくなってしまいました。

それを見た船頭はまっさおになって「これは大変なことでござえます」

紅ちりめんの武士

と呼びました。「この船のだれかが、富士川の大蛇にみこまれてしめえました。そのお方にとびこんでもらわなければみんな大蛇にのまれてしまいます」大蛇は深い川の底から、美



しい紅ちりめんのお姫様をみこんでしまったのです。

おともに、平杉金次郎という武士がいました。金次郎はお姫様の身がわりになろうと、紅ちりめんの打掛を頭からふんわりとかぶりしました。

ものすごい黒雲が空いちめんをおおい、いままで動かなかった船がまたスルスルと動きはじめました。みんながほっとためいきをついた時、川が真赤な血の水に変わって、大蛇の死がいと金次郎の死がいとが重なり合って流れていきました。

あとに残ったお姫様の一行と村人は、大蛇をたいじしてくれた平杉金次郎を岩淵の清源寺に、てあつくほうむったということです。



雨が降っても体操ができるぞ！

田子浦中に体育館が完成

雨が降っても体操ができるとおおよるこびの田子浦中学校の生徒達。待望の体育館が完成し、4月28日落成式を行いました。

落成式は、体育館に生徒全員が集

まり、渡辺市長やPTA会長の祝辞と、生徒を代表して飯塚直美さん(3年)が立派な体育館を大切に使用すとお礼の言葉をのべました。また、式のあと完成を記念して、

体育館の横にタイサンボクを植樹しました。

体育館は鉄筋1部鉄骨造り2階建てで、昨年10月から工事を進めていました。内部は体育室や放送室、更衣室などがあり、体育室はバスケットコートが2面取れる広さです。

